

二瀬ダム貯水池の貯留水の変色について!!

記者発表資料

荒川の最上流部にある二瀬ダムでは、貯水池の貯留水が赤褐色に変色しました。この現象の要因は、ダムに堆積している土砂から溶け出した鉄分により引き起こされている事が、貯水池内での水質調査等で判明しました。なおこの変色作用が、人や動・植物に対し害を与えるものではありません。

8月24日、貯水池に油膜状のものが浮遊し、原因を調べると油ではなく鉄バクテリアによる生成物である事が確認されたました。その後、いったんは収束したと思われたが、29日にダム貯水位が最低水位に到達したのを契機に、31日貯水池が赤褐色に変色しているのが判明、当初鉄バクテリアが貯水池全体に広がってきたものと推測しました。

しかし詳細な水質調査等の結果、原因はダム堆積土砂から溶け出した鉄分が酸化作用を受け赤サビ色に変化し、この鉄分の色が貯水池を赤褐色に見せている事が判明しました。

9月11日現在、貯水池はまだ赤褐色をしています。4日からダムに水を貯め込む操作に入りましたので、今後とも定期的に水質調査を継続しながら、貯水池状況を見守っていきたいと考えています。

平成21年9月14日
国土交通省 関東地方整備局
二瀬ダム管理所

発表記者クラブ

埼玉県政記者クラブ	秩父記者クラブ	竹芝記者クラブ
横浜海事記者クラブ	神奈川建設記者会	

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局
二瀬ダム管理所 所長 藤田 浩
管理係長 城田 健一 (TEL 0494-55-0001)

二瀬ダム貯水池の水の変色について

1. 概要

平成21年8月31日より、二瀬ダムの貯水池の貯留水や下流河川の一部区間の河川水が変色する現象が顕著になっています。

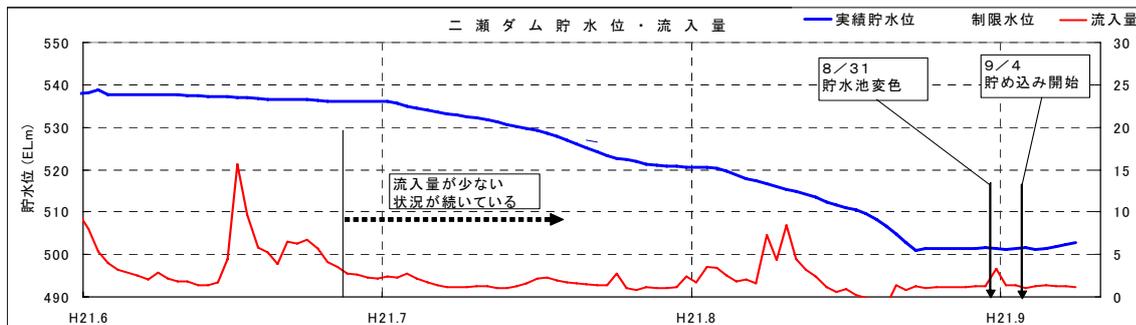
この変色の原因について、9月4日に水質調査を行った結果、鉄の酸化による着色の影響と判明しました。



2. 変色の原因

二瀬ダムの貯水位は、7月1日は標高536mでしたが、制限水位に従って徐々に貯水位を低下させ、8月29日では標高501mで管理しています。

小雨のため貯水池に流入する水量が少なく、貯水池の水が入れ変わらないことにより、水中に含まれる酸素が少なく今回の状態になったと考えられます。



9月4日の水質調査結果より、以下のことがわかりました。

- 露出した湖底や、ダムサイト付近の底泥から溶解性鉄が溶出し、貯水池内に滞留し、大気や水中の酸素により酸化します。酸化により着色するため、湖水が変色します。
- 着色された湖水が放流されるため、下流河川の一部でも変色区間が生じています。
- 原因が鉄分であるため、人や動・植物に対し害を与えるものではありません。

3. 今後の対応

- 定期的に水質調査を行い、水質を監視していきます。